

試験当日と翌日以降の心構え

受験票がすでに手元に届いていると思います。いよいよ今月に試験日が迫りました。試験の前日から当日、また翌日に至るまでの注意事項や、心構えなどについて記述しますので、参考にして下さい。今回で筆記試験前の講座は終了です。

7月16日の筆記試験日の翌日以降に各試験問題が入手できれば、出題の分析速報を選択科目別に数回に分けて掲載する予定です。

1. 試験の前日

- 1) 持参品の確認：受験票、書きやすい、使い慣れた（軽い）シャープペンシル数本（Bか2B 自分の筆圧に応じて選択）、消しゴム2個、定規、時計、飲み物のペットボトル、タオル（汗取りや冷房対策を兼ねた大き目のスポーツタオル等を準備するとよい）
- 2) 試験当日は体力・気力勝負になるので、前日は持参品の確認をして早く就寝する。
受験票裏面に記載されている注意事項等をよく読んでおく。

2. 試験の当日

- 3) リラックスできる軽装、場所により冷房が効き過ぎることがあるので、その対策。
(冷え性や冷房が苦手な方は特に注意)
- 4) 交通機関のトラブル等に備え、会場へは少なくとも30分以上前には到着。
(何が起きるかわからない。リスク管理を！)
- 5) 交通機関の遅延等やむを得ない事情による万一の遅刻の場合には、試験開始後30分までは入室を認められるので、監督員等係員の指示に従う。あきらめてはいけない。
- 6) 試験会場の案内（キャンパス見取り図及び、各選択科目の試験室の案内を、当日校門内で配布している。また、各教室に受験番号順の着席図を掲示し、机の上に受験番号・氏名を記したカードが貼っている。
福岡での試験会場の西南学院大学は、市営地下鉄西新駅から近いので迷うことはないと思うが、事前に場所を確認しておく。西南学院大学のキャンパスはコンパクトで、これまで試験会場として使われてきた他の私立大学（九州産業大学、福岡工業大学、福岡大学）のような、広さはないので、分かりやすい。ただしキャンパス内は全面禁煙で、喫煙場所はないことに注意。
(キャンパス西側の道路を挟んで体育館前に、喫煙コーナーが指定されている。)
- 7) 昼食（弁当）・飲み物類（ペットボトル）を持参する。外食は会場周辺は混み合うし、時間がもったいない。
- 8) 受験者が多くて複数の建物で行われる地区（福岡以外）では会場、建物、部屋、席を間違えないよう再確認。
(スタートでつまずくとあせって、いいことにはならない)
- 9) 携帯電話は、持参しないか、必ずOFFしてカバン等にしまう。
- 10) 携帯電話（スマートフォンを含む）、パソコン、ウェアラブル端末（スマートウォッチ等）、タブレット端末等の通信機器・電子機器、電卓等のチェックが厳しくなっている。疑われるような行為は厳禁。（これらを時計代わりに使用すると不正と見なされるおそれ）

- 1 1) 試験開始時刻の15分位前までにトイレ等を済ませ、着席しておく。
- 1 2) 万一、受験票の持参を忘れた場合、本人確認のための手続を試験本部で行う必要があるので、免許証等の証明可能なものを携帯しておく。この場合、多少時間を要するので、着席と同時に受験票を確認し出しておく。
- 1 3) 指定された座席の不都合、例えば机面が凹凸、冷風吹き出し口で冷房効きすぎ等、ベストな状態あるいは公平でないと感じる状態の席では、監督員に申告すれば席替えが可能になることがある。
- 1 4) 解答用紙、問題用紙の順で配られ、注意事項について試験開始時間前に説明が行われる。
受験番号、名前、選択科目等、答案用紙への必須事項は、試験開始後に記入する。
(平成26年度から試験開始後に変更されている。)
- 1 5) 試験監督員の指示に従い、不明の点は質問して確認する。

《平成30年度 技術士第二次試験筆記試験 当日の注意事項等》

https://www.engineer.or.jp/c_topics/005/005818.html

3. 試験開始後

- 1 5) 主任監督員から「始めて下さい」との合図で問題用紙を開き、答案用紙に必要事項を記入する。
- 1 6) 午前中の必須科目では1時間30分で、20問出題中15問の解答選択であるから、時間は十分にある。ひと通り問題文を読んでから解答する問題を選び、正解を選ぶこともできる。問題文は読み間違えないよう(適切なものを選ぶ、または不適切なものを選ぶ)か、よく確認する。いくら考えても確信が持てない5問題は、できるだけ早く選択から外す
- 1 7) 特に午後からの記述式試験では**極度に緊張するのが普通であるが、冷静になるために深呼吸をして心を落ち着けてから始める。**
- 1 8) 複数の出題から選択して記述する、午後からの選択科目の問題には迷わず、素早く選択する。
- 1 9) 問題を開いた途端、予想し準備した出題でない場合でも気落ちせず全力投球でいくこと。
予想・準備していない問題でも、自分の努力と能力を信じてこれまで努力して準備した論文のフレーズ、キーワードを駆使し、最後まであきらめず書き終える。みんな同じ条件である。途中で終わって未完成なら点はつけられないが、完結していれば評点は与えられる。
- 2 0) **早とちりしないよう、問題をよく読む。**(問題文の読み違い、読み落しは結構多い)
出題は毎年同じ形式とは限らない。**題意に沿った解答を心がける。**(内容、順序、用語など)
- 2 1) **受験番号、名前、選択した問題番号等必須事項の記入忘れに注意。**
(記入もれ・記入違いで失格となる受験者が少なくない。)
- 2 2) 解答の構想をまとめる時間と、書き終わった後の再確認の時間を確保する。
答案は出題を見てすぐに書きはじめず、項目、キーワードなどを問題用紙の余白にメモするなど構想をまとめ、準備してから書きはじめる。
答案論文は訓練していても、なかなか一気には書けるものではない。
- 2 3) 冷房していても緊張と連続筆記で手にかなりの汗が出る。**タオル・ペットボトルは必需品。**ただし飲み物はのどを湿らす程度に。試験室にペットボトル及びボトル缶(ふた付き)の持ち込みは許可されるが、水筒又は缶類は、持ち込みできない。ペットボトル等保冷ケースの使用は禁止されている。
- 2 4) トイレには申告すれば試験の途中で行けるが、**時間のロスになることを覚悟。**

- がまんをしていると思考力、集中力が低下するので、早めに思い切って申告していく。
- 25) 試験問題及び答案用紙の交換は、落丁・印刷不鮮明以外応じない。答案用紙は余分に配られないし、汚損などによっても交換はできないので、取り扱いにはくれぐれも注意。
- 26) 使うべき用語、漢字がどうしても思い出せず出てこない場合、別の言葉で言い換えるのも能力の一つ。(誤字、ひらかなは減点)
公式の用語以外はやたらと外国語(カタカナ語)を使わない。
- 27) 試験の時間は一杯使って最後の最後まで見直す。誤字、脱字、句読点、記述もれ、言い換え、見苦しくない程度に加筆、修正、訂正を加える。消し跡はできるだけきれいに消す。
受験番号、選択科目、選択問題の番号等が解答用紙の指定位置に記入しているか、記入ミス記入漏れがないか、何度も確認。ケアレスミスで失格になったら、泣くにならない。
- 28) 手洗いでの一時的退出以外の途中退出は、29年度から棄権となって失格する。
試験時刻終了まで残って問題用紙は必ず持ち帰る。

4. 試験の翌日以降

- 29) 試験が終わったら忘れないうちに、できれば翌日までには論文記述の要点(少なくとも項目、キーワード程度)はメモを残しておく。当分鉛筆を持ちたくもない、字は書きたくない状態になるが、問題用紙にメモした項目やキーワードに基いて書いた論文の内容を思い出して必ず再現しておく。口頭試験で質問される場合があり、答えるために必要になる。
択一試験の正答が日本技術士会のHPで1週間後の7月25日頃の予定で公表される。
必ず答え合わせをしておく。
- 30) 筆記試験の出来不出来に関わらず、最終合格を目指して口頭試験の準備にとりかかること。
筆記試験に合格するために準備したのだから、試験が終わった後すぐ口頭試験に備えて口頭試験への問いを予想し、解答を準備する。

問題用紙を必ず持ち帰って、下書きから答案の概要を復元して次に備えます。この筆記試験で終わりではありません。試験が終わった後、自分が記述した答案の内容が完璧だったと思うことは、まずありえません。そこで書き足りなかったことや不正確だったことを確認して、補足あるいは修正することが必ず次のステップにつながるのです。

◎ 筆記試験の合格レベルに未達であることを自覚したなら、どの部分が不足しているのか、どのような学習を積み重ねる必要があるのかを分析して、次の試験に向けて強化します。

この学習を継続して行わないことが、何度も不合格を繰り返している大きな原因です。

不合格を何年も繰り返している多くの方は、試験終了後から10月の合格発表まで何もフォローせず、「あーあ、今年も不合格だった」と、さらに翌年の4月頃まで何もせずに過ごすことを毎年繰り返すのみです。これでは何年受験を繰り返してもスキルが蓄積しませんから、合格レベルには到達できません。試験が終わってからの大事な期間をどう過ごすかが、実力に大きく差がつくことはいまでもありません。

つまり **Plan ⇒ Do ⇒ Check ⇒ Action** が非常に重要です。

頑張った自分を信じて最善を尽くせば、必ずいい結果が得られます。 **健闘を祈ります!**

平成 25～平成 29 年度 第二次試験 建設部門 各選択科目 全国での試験結果の統計値

選択科目	年 度	受験申込者 数(人)	受験者数 (人)	筆記試験 受験率%	筆記試験合 格者数(人)	最終合格者 数(人)	口頭試験 合格率%	最終 合格率%
1. 土質及び 基礎	29	1,462	1,137	77.8	200	176	88.0	15.5
	28	1,466	1,144	77.8	164	146	89.0	12.8
	27	1,437	1,160	80.7	165	146	88.4	12.6
	26	1,407	1,052	74.8	132	117	88.6	11.1
	25	1,445	1,103	76.3	161	144	89.4	13.1
2. 鋼構造及び コンクリート	29	3,423	2,662	77.8	248	219	88.3	8.2
	28	3,288	2,589	79.2	324	292	90.0	11.3
	27	3,173	2,518	79.3	320	259	80.9	10.3
	26	3,078	2,296	74.6	286	284	99.3	12.4
	25	3,017	1,869	61.9	309	269	87.1	14.4
3. 都市及び 地方計画	29	1,319	1,045	79.2	167	159	95.2	15.2
	28	1,327	1,006	75.8	157	145	92.4	14.4
	27	1,244	1,001	80.5	156	142	91.0	14.2
	26	1,220	923	75.7	132	130	98.5	14.1
	25	1,287	943	73.3	145	140	96.6	14.8
4. 河川・砂防 及び海岸・海洋	29	2,554	2,074	81.2	283	265	93.6	12.8
	28	2,473	1,972	79.7	197	190	96.4	9.6
	27	2,540	2,081	81.9	253	241	95.2	11.6
	26	2,473	1,901	76.9	236	226	95.8	11.9
	25	2,638	1,878	71.1	266	247	92.9	13.2
5. 港湾及び 空港	29	578	452	78.2	64	58	90.6	12.8
	28	551	417	75.6	57	57	100	13.7
	27	544	427	78.5	63	58	92.1	13.6
	26	554	414	74.7	65	57	87.7	13.8
	25	562	427	76.0	63	55	87.3	12.9
6. 電力土木	29	148	113	76.3	23	17	73.9	15.0
	28	122	97	79.5	27	23	85.2	23.7
	27	122	96	78.7	19	12	63.2	12.5
	26	128	103	80.5	13	11	84.6	10.7
	25	128	99	77.3	13	10	76.9	10.1
7. 道路	29	3,090	2,382	77.1	446	413	92.6	17.3
	28	3,135	2,481	79.1	458	427	93.2	17.2
	27	3,160	2,511	79.5	236	228	96.6	9.1
	26	3,087	2,315	75.0	200	193	96.5	8.3
	25	3,232	2,205	68.2	441	329	74.6	14.9
8. 鉄道	29	768	606	78.9	80	74	92.5	12.2
	28	736	548	74.5	71	63	88.7	11.5
	27	686	529	77.1	60	58	96.7	11.0

	26	675	488	72.2	64	55	85.9	11.3
	25	706	474	67.1	64	58	90.1	12.2
9. トンネル	29	662	493	74.5	81	73	90.1	14.8
	28	643	489	76.0	88	81	92.0	16.6
	27	587	455	77.5	74	67	90.5	14.7
	26	598	407	68.1	77	67	87.0	16.5
	25	649	412	63.5	77	72	93.5	17.5
10. 施工計画 施工設備	29	3,209	2,506	78.1	271	256	94.5	10.2
	28	2,813	2,150	76.4	283	264	93.0	12.3
	27	2,578	2,043	79.2	335	303	90.4	14.8
	26	2,597	1,846	71.0	336	313	93.2	17.0
	25	2,770	1,935	69.9	343	319	93.0	16.5
11. 建設環境	29	979	778	79.5	124	107	86.3	13.8
	28	981	755	77.0	118	98	83.1	13.0
	27	1,037	814	78.5	126	109	86.5	13.4
	26	1,095	808	73.8	145	127	87.6	15.7
	25	1,218	875	71.3	143	128	89.5	14.6
建設部門 合 計	29	18,192	14,248	78.3	1,974	1,817	92.0	12.8
	28	17,535	13,648	77.8	1,944	1,786	91.9	13.1
	27	17,108	13,635	79.7	1,807	1,623	89.8	11.9
	26	16,912	12,553	74.2	1,687	1,580	93.7	12.6
	25	17,652	12,218	69.2	2,025	1,834	90.5	15.0

今回は7月25日頃から、平成30年度の出題解説を福岡での受験申込者が多かった科目順に掲載する予定です。(29年度は以下の掲載順でした。30年度は順位を変えることもあります。)

- 7月25日頃以降
- 第1回 施工計画 科目
 - 第2回 コンクリート
 - 第3回 道路
 - 第4回 河川・砂防
 - 第5回 必須科目(択一試験)
 - 第6回 土質及び基礎
 - 第7回 都市及び地方計画
 - 第8回 建設環境
 - 第9回 鋼構造
 - 第10回 トンネル

- 11月上旬 筆記試験の合格発表(10月30日)速報
- 11月上旬 口頭試験受験へ向けて
- 3月上旬 最終合格発表(3月8日)速報